

## 第5章 評価指標

	目 標	評価指標項目	担当課	現状値	H33年度の目標値	
1. 健康につながる食生活の確立	①子どもや若い世代の朝食を欠食する人を減少させるため規則正しい生活リズムと望ましい食習慣を実践できるを増やす	朝食摂取率	こども支援課	H25年度 園児 94.9%	現状値より上回る	
			学校教育課	H25年度 小学生 94.2%	現状値より上回る	
			学校教育課	H25年度 中学生 88.9%	現状値より上回る	
			健康づくり課	H27年度 20代男性 67.8%	85%	
			健康づくり課	H27年度 30代男性 82.2%	85%	
			福祉介護課	H27年度 高齢者(60歳~80歳) 96.3%	100%	
		自分の食事について問題を感じている人の割合	健康づくり課	H27年度 (20歳代~50歳代の平均) 55.8%	50%以下	
	②栄養バランスの良い食生活を身につけている人を増やす	主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる子どもの割合	こども支援課	H25年度 園児 27.5%	現状値より上回る	
			学校教育課	H25年度 小学生 35.1%	現状値より上回る	
			学校教育課	H25年度 中学生 34.0%	現状値より上回る	
			主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上している成人の割合	健康づくり課	H26年度 57%	60%
			主食・主菜・副菜がそろった食事を1日2回以上している高齢者の割合	福祉介護課	H26年度 76%	80%
			野菜を毎食食べる成人の割合	健康づくり課	H27年度 28.4%	30%
		減塩に取り組んでいる人の割合 *積極的に+少し	健康づくり課	H27年度 50.4%	60%	
	③適切な体重管理と生活習慣病予防のために食品を選択する力を身につけられるようにする	肥満者の割合	こども支援課	H28年度 園児 6.46%	6%以下	
学校教育課			H28年度 小学生 11.9%	9%以下		
学校教育課			H28年度 中学生 9.0%	9%以下		

	目 標	評価指標項目	担当課	現状値	H33年度の目標値
1. 健康につながる食生活の確立	③適切な体重管理と生活習慣病予防のために食品を選択する力を身につけられるようにする	特定健診受診者でBMIが25以上の人の割合	健康づくり課	H27年度 24.3%	22%以下
		高齢者(60歳~80歳)のやせ(BMI18.5未満)の割合	福祉介護課	H26年度 8.3%	8.3%維持
		適正な体重を維持しようと心がけている高齢者(60歳~80歳)の割合	福祉介護課	H26年度 75.3%	80%
		よく噛んで食べるよう意識している人の割合	健康づくり課	H26年度 成人 23.8%	30%
			福祉介護課	H26年度 高齢者(60歳~80歳) 32.5%	35%
		栄養成分表示を参考にしている人の割合	健康づくり課	H27年度 45.7% (「いつも」+「時々参考にしている」を合わせて)	50%
		適切な間食を選び、摂取をしている人の割合	健康づくり課	未把握	現状把握の上、目標値を設定
2. 地産地消の推進と食の安全の確保	①旬の食べ物を新鮮なうちに食べることは栄養価も高いことから地産地消を推進し、地場産物の消費拡大を行う	学校給食での地場産使用率(品目数ベース)	学校教育課	23%	20%(H30年までに) (市教育振興基本計画より)
		各家庭での地場産使用状況	健康づくり課	未把握	現状把握の上、目標値を設定
		市民の地産地消に関する認知度	農林水産課	未把握	現状把握の上、目標値を設定
		年間をとおしてどの程度推進店が認証されたか	農林水産課	未把握	現状把握の上、目標値を設定
		アンケート等で直売所の利用状況とニーズについて確認	農林水産課	未把握	現状把握の上、目標値を設定
	②食の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断できる人を増やす	食材を選ぶときに安全性や生産地などを考慮している割合	健康づくり課	H27年度 「いつも考慮している」+「時々考慮している」を合わせて 66.7%	70%

	目標	評価指標項目	担当課	現状値	H33年度の目標値
3. 食文化の伝承・発展	①家庭や地域の伝統料理や郷土料理の伝承を図る	伝承料理等を食べる人の割合	健康づくり課	H27年度 20歳代 69.7%	70%
			健康づくり課	H27年度 30歳代 61.8%	70%
		伝承料理を知っている、食べたことがある子どもの割合	学校教育課	未把握	現状把握の上、 目標値を設定
		地域や家庭で受け継がれてきた伝承料理や作法等を継承し伝えている人の割合	健康づくり課	未把握	現状把握の上、 目標値を設定
	②正しい食スマナーを身につけられるようにする	「いただきます」「ごちそうさま」の習慣がついている子どもの割合	健康づくり課	H27年度 3歳児 95.6%	100%
			こども支援課	H25年度 園児 50.3%	現状値より上回る
			学校教育課	H25年度 小学生 52.6%	現状値より上回る
			学校教育課	H25年度 中学生 55.8%	現状値より上回る
	③1日1回は家族で食事を取る人が増える	夕食を「家族そろって食べる」「大人の家族の誰かと食べる」割合	こども支援課	H25年度 園児 97.6%	現状値より上回る
			学校教育課	H25年度 小学生 95.4%	現状値より上回る
			学校教育課	H25年度 中学生 87.5%	現状値より上回る
		1日に1回は家族で食事を取る人の割合	健康づくり課	H27年度 成人 86.5%	90%
4. 食を取り巻く環境問題への取り組み	①食品ロス削減のために行動している人を増やす ②家庭系生ごみのリサイクルを推進する ③生ごみを含む可燃ごみの減量化を図る	給食残量	学校教育課	H27年 69.1 kg/日	60 kg/日以下 (H30年までに) (市教育振興基本計画より)
		食品ロスのために何らかの行動をしている人の割合	健康づくり課	未把握	現状把握の上、 目標値を設定
		市内の家庭から排出される可燃ごみの量	市民生活課	H27年 7,161 t/年	6,592 t/年

	目標	評価指標項目	担当課	現状値	H33年度の目標値	
5. 人づくり、市の活性化	①食育に関心を持っている人を増やすために、家庭・地域・園・学校・行政が一体となり食育の推進を図る	食育という言葉や意味を知っている人の割合	健康づくり課	H27年度 41.5%	50%	
		食育に関心がある、どちらかというに関心がある人の割合	健康づくり課	H27年度 62.6%	70%	
	②食育を推進する人材の充実を図り、地域における食育活動の推進、農業体験や交流活動を促進する	食育を推進するボランティア	食生活改善推進委員数	健康づくり課	H28年度末 101人	110人
			胎内食育PR隊数	健康づくり課	H28年度末 27人	35人
			食体験受入団体数	農林水産課	10団体	12団体
			農村体験人数	農林水産課	1,300人	1,600人
			登録農家稼働率	農林水産課	H28年度 26%	40%
	③胎内市の特産である米粉や地場農産物の利用を促進し、市の活性化を図る	胎内産の特産品を知っている子どもの割合	健康づくり課	未把握	現状把握の上、目標値を設定	
		市内家庭向け米粉販売量	商工観光課 農林水産課	H27年度 200kg/年	1,500kg/年	
		米粉を市の特産品と認識している人の割合	商工観光課	未把握	現状把握の上、目標値を設定	